

心理学シリーズ 「人間嫌い」編 <その1>

2006.05.15 タツノオトシゴ



さて今年はライ君の年、何か良い事がありましたでしょうか？
我が家のイノシシ（次女）は4月から社会人となり、私は学生生活と社会人生活に再度別れを告げました。が、家族4人の中で『何とな〜く、居心地の悪さ』を感じています。

暇な時間を持て余し、好きな時間に起きて好きな時間に寝る・・・
お腹が空けば冷蔵庫の中をあさり、勝手気ままな毎日です。（まるで世捨て人の生活？）
何故こんな事になったのでしょうか？近年、家族という人間社会のバランスが変化しています。ちょっと「社会学+心理学」の世界を覗いてみましょう。

新シリーズを書くにあたり、「どんなテーマにしようか？」悩みながら期日の迫る日を数えていました。いつもの習性で、切羽詰らないと取り掛からないのです。でも、今回は少し違いました。「テーマは有りすぎるのですが、気持ちが入らない！」という毎日で、まるで「悩める作家 (-;-)」状態が続いています。今までの経験上、このような場合は流れに逆らわず、身を任せるのが一番です。下手に動くとは怪我をします。今までのシリーズ10回は、ある程度枠組みを作り流れに沿ってきたのですが、これからは指針の無い世界です。何処まで飛んでいくか分かりませんがお付き合い下さい。

『人間』という存在は、コミュニケーション（信頼関係）の上に成立しています。

DOKU - GAKU のメンバーも大分素顔が見えてきました。しかし、それは活字や写真を通しての姿です。その背景には、見えない『個人』が存在しているのでしょうか。会員の皆さんを思い浮かべ「何か関連性を持たせるテーマは無いか？」と思案しながら、作家風に「まず題名を決める！」事から始めてみました。「かずくんの質問」の中で、何気なく答えた「記録映画が好き」「人間嫌いかも・・・」を手がかりに、2006年3月号・皆さんのメッセージの幾つかに、自分なりの解釈を加えてみます。言葉（言霊）の持つ魅力、その人の性格や何気ない仕草から幾つかを読み取ってみました。



<2006年3月号、日出彦さんの記事から>

「列に並んで安心したのは、中年や熟年の観客も多いこと、一人で観に来ている人も多いことでした。」……心が落ち着く環境が確保され、周辺を観察する余裕も出来ました。

『夜会』って何?」の旅は、私にとっては、とてもオモシロイ荒旅です。の部分に大変共感し、勇気付けられていますネ！ 旅とは『孤独』の世界を体感する機会です。

「心にゆとりのないときに映画は癒す薬です。…気が付くと結構映画館に通っていました。」……ハルシオン、ドグマチール、ソナラックス、アキネトン etc : 危ない薬です。

入手方法を知りたい方は、私のアドレスへ内緒でネ……

<2006年3月号、TICAさんの記事から>

「素顔はお見せできないので、日記を公開します。」「最初のうちはおとなしく、慣れたらすごい。人見知り。」……慎重な中にも、大胆で計画的な行動が潜んでいます。

あとくんいわく『ヤンキーかあちゃん』……ちっ……この関係、好きです。

<踏まれたり蹴られたり>……という生活体験が、今のTICAさんを強くしています。

<2006年3月号、矢澤洋爾さんの記事から>

「人間は個人個人が己の個人関数を持っていて……それが一致する人のそばにいと幸福が共鳴することがある。」「それぞれの人にとって環境とは『私を除いて存在する全て』であるに違いない。」「宇宙＝環境＝自分」……悩める数学者は、哲学的な心境です。

そこで、私なら「宇宙＝環境÷自分」としてみますネ。(ちょっと宗教的な世界かも?)

*自分が1なら「宇宙＝環境」ですが自分を0とすると「宇宙＝∞」となります。

<2006年3月号、ゆうこさんの記事からも>

うさお：『白々と陽射さぬ屋根の残り雪』：「この句は良いですね、……」

『細雪川面に一人たたずみて』：「情緒ある句ですね。」

健さん：『春寒し商人宿の古時計』：「季語と中七下五の兼ね合いがとても良いです。

……でもやっぱりこの季語がぴったりっていう、まさにそんな句ですね。」

……ゆうこさんの個人関数が作品と共鳴しています。

ゆうこ：『うふふと
声する道や水温む』

……薄暗い部屋と
外の情景対比がと
てもたまらない！
何か、心の窓から
光が差し込んでく
るようです。



<2006年3月号、うさお&Cacaoさんの記事から>

「道をふさいで牽制する。ふんっ。朝のお散歩の柴犬君と出会う。おはよう！にこっ」

…あるある、強がりと優しさの共存！ 年寄り（失礼？）の冷水…

「人通りの少ない町並みな割りに、ベンチで休んでいる人のなんと多いことか。」

…観察する余裕と、「自分も一寸休みたい」意識が見受けられます。

*「昼真っから若いもんが…ちっ！」又は「俺は、まだ若いぞ！」なのか???

「これじゃあないんでしょうかうさおが憶えているのは。…こんな怖いとこに遊びに来たのかな？」…何が怖かって、見知らぬ人間がヌ〜ッと出てきたら…

<2006年3月号、yuka&ticaさんの記事から>

「もしやあたしも毒されている」…『そんな訳は無いよ！』と確信犯

「二本垂らすと首が太く見えると母に言われた。やばいじゃん」

…まだまだライバルの母、ここで自分の失点を認めたくなかったのに〜い！

「これを『よじげん』と読めてしまう自分が恨めしい」…才能をもてあまし気味！！

*9年前、トルコの内陸（カッパドキア付近）で見たトルコ絨毯を思い出しました。売り物ではなかったのですが裏と表の柄が違う絨毯、0.45 m²位の物でしたが数年がかりで織り上げています。あの技術は誰に伝承されているのか？気がかりです。

<2006年3月号、TomyJr.さんの記事から>

「自分が憧れるキャラは…クールで、情も理解していて葛藤しているストイックな姿に惹かれます。」…解説不要ですね^^)、我が家ではチャンネルを巡って「チャンピオン」の戦いで、土曜日の夜だけは賑やかな一時です。（最後には親の強権を発動します）

「これはダメだア…世界に入れないもの。会員制のクラブの如し」

…おや？意外と軟弱な（自分に甘〜いっ！）面が同居しています。無理に咀嚼せず、メッセージとして捉えると楽になります。（理屈は、あとから付いてくるのです）

「次回からどんな新シリーズが始まるのか楽しみに待ちます」

「次回のTICAさん
も楽しみです」

「いつ見ても可愛いし
和むなあ…」

「反応を楽しみにし
ています。…これか
らも大いに期待です」
褒め上手なTomyJr.
さんでした。



<韓流の記事が大流行です>

「恋という、心にぽっかり灯るものの強さがとてもせつない」

「裏切られたふたりは、寂しさを埋め合わせるようにひかれあっていく」

「一つの番組を共同で作り上げていくことになった二人は、やがて自然な成り行きで恋に落ちる」・・・これを日本で映画化すると嘘っぽい映画に仕上がります。

韓国という別の世界だから、あり得る話として伝わってくるのでしょうか。

* 今の日本では、
人間関係が崩壊して
います。失った過去
のものを追い求める
切なさが、韓国映画
に投影されているか
らではないでしょ
うか？



皆さんの興味ありそうな記事を探しておきました。

第10回手塚治虫文化賞の大賞作品に吾妻ひでお氏の「失踪日記」が決まりました。1950年北海道生まれの彼は、2度の失跡とアルコール依存症での入院を経て、復活したのです。「実際にホームレス生活をしている時はすごく厳しかったが、時間をおいて思い出してみると、なんか間抜けというか笑える。結局はホームレスも日常になっていくんだなと。『アル中』だってそれがいつもの生活になる」というコメントと、「常に自分を第三者として見てしまう・・・マンガの中の住人になるというのが、子どものころからの願望なんです。何も悩まないで、バカみたいで楽しそうでしょ」入院を契機に始めた断酒も7年を迎えた。「なるべく自分を追い込まないようにしています。朝起きて、午前中2、3時間仕事をしたら午後は休み。図書館でぼーっとしたり、散歩したり。断酒と一緒に、無理をしないで、少しずつ積み重ねていきたいですね」描けずに逃げてきたはずのマンガ、でも親会社の社内報に投稿をしてしまう吾妻氏なのでした。

どこかで聞いたようなセリフ（自分の胸に手を当てている人は誰・・・？）

皆さん、スタートラインに立てましたか？ 次回この続きはどうなるのやら？

追伸：前回の池の写真で『トルネード』とは？

日本語に訳すと一般的は「竜巻」でしょう。地上では蚊柱が有名ですが、水の中では、小魚が何百匹もの群れを作り泳いでいます。水中をまるで竜巻が動く様に見えるのです。水族館では鯛の群れが泳いでいる様子が時々見受けられますが、池では多分フナの子の群れでしょう。そして水面では小さな渦巻きが発生します。